

エスコフイエ

赤谷慶子

十數年前、巴里の學校の同窓会に出席するため、訪れし東京に戦後初開店せし佛蘭西の食堂「銀座エスコフイエ」。一九五〇年に創業し、オーギュスト・エスコフイエの傳統に従ひたる賄ひ法を繼承せし名店はコロナや賃料の高騰などに苦しみ、七十四年の歴史に幕を閉じたり。されど、總膳長や支配人らこれまで培ひこし味と心を後繼にて別の店を新たに開店せり。一度訪れたしと思慮す。エスコフイエは銀座のエルメス建物の近くにあり、幾度も會社の先達や子どもと行きき。コロナのため營業困難に陥り、閉店せる食堂はあまたあるらめど、これまた口惜しき事なり。

巴里の學校の同窓会は、大半は巴里育ちの人々なれば、日ごろ佛蘭西膳の店に集ふが常なり。巴里在住中吾は小學生なれば、兒童は高級食堂には入るを得ず。さればそのあたりの消息には疎し。同窓会は年ごろ小ぶりの佛蘭西の店にて行はるれば楽しみなり。

日ごろいとなみ止め、加齢と共に養生維持に躍起になれり。食ふものはもとより氣を付けたれど、インスタグラムの膳に興味津々なり。インスタグラムには膨大なる情報盛り込まれてあり、人工知能に如何にせば吾興味の無い畫像拒否せらるるやを問ひたり。いちいち興なしと教へ込む事に排除せらるるを知らせ來れば、iPhone に指示をいだしき。ここにおいて手易き賄ひ法のみが呈示せらるるに到る。問ひはその情報傳達と消去の速度の速さなり。作れどなかなか旨ければ便利に使へり。膳の處方箋も人工知能に聞けば、おのれの好みの賄ひ方提示せらる。情報の速度は世の流れのごとく、目まぐるしくうつろひゆけば、高齢者はゆゆし。

(令和八年四月二十八日受附)